

‘愛媛果試第48号’ の適正葉果比の検討 (2019年産)

新たな愛媛ブランドとして期待されている‘愛媛果試第48号’の早期産地化を図るため、高品質果実安定生産技術を確立する必要がある。本調査では、最終葉果比が果実品質と次年の着花に及ぼす影響について検討した。

所内14号園(雨よけハウス)の‘愛媛果試第48号’(3年生、ウンシュウミカン中間台を供試した。2019年7月9日に葉果比60にあら摘果し、9月10日に最終葉果比80と100に仕上げ摘果した処理区を設けた。

果実品質	1果重	果肉歩合	糖度	クエン酸含量	果皮色
処理区	(g)	(%)	(° Brix)	(g/100ml)	(a*値)
葉果比80	278	82.0	14.4 *	0.89	29.9
葉果比100	290	81.5	13.7	0.83	29.8

2020年3月10日調査

t検定により、*は5%水準水準で有意差あり

糖度は、葉果比80が高かった

着果数、収量、階級割合		階級割合(%)					
処理区	着果数	収量	M	L	2L	3L	4L
	(個/m ³)	(kg/m ³)					
葉果比80	10.0	2.8	1.7	12.7	79.2	6.5	0.0
葉果比100	11.9	2.6	0.0	9.7	71.4	15.7	3.2

2020年3月10日調査

収量の差はなかった
葉果比80は2L~L、葉果比100は3L~2Lの割合が高かった

次年度の着花数

処理区	着花数(個)				新葉比
	全果	単性有葉花	総状有葉花	直花	
葉果比80	55.0	12.2	24.3	18.5	42.2
葉果比100	64.0	17.2	19.6	27.2	51.6

2020年5月3日調査

t検定により有意差なし

次年の着花は、十分量確保できた



愛媛果試第48号の適正葉果比は、80と考えられるが、引き続き調査する必要がある